

東松島復興推進員だより（第14号）

～地を往きて走らず～

東松島市の宮戸島に位置する宮戸地区は東日本大震災の津波被害により 4 つの集落のうち 3 つが壊滅してしまいましたが、もとの集落を中心とした仮設住宅が整備され、コミュニティは比較的良好に保たれています。しかし、震災前は戸々の生業である漁業や養殖業、民宿の仕事を手伝っていた島の中老年の女性たちは、働く場を失い日々の楽しみや生きがいを見い出せずにあります。また商店や飲食店などの住民が立ち寄れる場所は島内には殆んどなく、観光客にとっても、ちょっとお茶をのんだり食事できる施設がありません。

そんな中、宮戸コミュニティ推進協議会では縄文村歴史資料館（宮戸には縄文時代の貝塚が沢山あります）敷地内にある閉鎖されていた市の小さな建物を借りて、飲食施設「げんちゃんハウス」を、コミュニティビジネスの一環として運営することにしました（「げんちゃん」は縄文村のキャラクター、原始人の男の子です）。この施設は地域住民の集いの場となる飲食スペースの提供と観光客向けの案内所、物品販売所を併設し、地域住民のみならず観光客やボランティア等、誰もが立ち寄れる交流の場として、島の活性化の中心的役割を担っていく予定です。



宮戸島のげんちゃんハウス



季節のお魚を使った天ぷら定食

飲食店の切り盛りは、この島にたくさんいる「働き者のおばちゃん」が担います。おばちゃん達は震災前、民宿で料理の腕を振っていた人達で、震災後は島を訪れたボランティアの方々に感謝の炊き出しを提供するなど献身的な活動をしてきました。彼女たちが再びいきいきと働ける場と外部の人達との交流の場を提供し、安定した収益を確保することで雇用を維持し、宮戸地区全体の復

興に少しでも寄与するのが目標です。

さて、肝心のメニューですが、先月初めまでは「宮戸産牡蠣フライ定食」が一番人気でした。800円で他のお店の倍くらいの量の美味しくて新鮮な牡蠣が楽しめました。牡蠣のシーズンが終了して、現在は「白魚の天ぷら」がオススメ！宮戸地区で活動する私もこれまで昼食は持参のお弁当だったのですが、「げんちゃんハウス」がオープンしてからは、美味しい地元食材を堪能しています。お昼時は近隣で復旧工事をしている方も多く訪れ賑わっています。また、店内では宮戸産の焼き海苔や佃煮も購入できます。佃煮作りは私も手伝っています。



海苔佃煮に挑戦する四倉推進員



河北新報社でも取り上げられました。

これから暖かくなるにつれて、奥松島の景勝地・宮戸島には多くの観光客が訪れるでしょう。大高森から見る松島湾は絶景です。この夏は月浜海水浴場も再開される予定です。みなさんも是非、宮戸島を訪れて、「げんちゃんハウス」で一服して行ってください！

東松島地域復興推進員 四倉 禎一郎

【げんちゃんハウス】

場 所： 東松島市宮戸字里 18-88 縄文村歴史資料館敷地内

営業日：土・日・祝日 10：30 ～ 15：00

【河北新報掲載記事】

<http://jyoho.kahoku.co.jp/member/backnum/news/2013/03/20130327t15014.htm>

【推進員だよりバックナンバー：JICA東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
